

さざなみ

須崎市教育研究所 発行
令和5年6月20日

第1回不登校・不登校傾向対策委員会

6月13日（火）に令和5年度第1回目となる「不登校・不登校傾向対策委員会」を実施しました。本年度の委員長には新莊小学校の西原校長、副委員長には多ノ郷小学校の岡野先生が選出されました。1年間よろしくお願いいたします。

今回は須崎市アウトリーチ型スクールカウンセラーの吉田亜里咲氏に「子どもたちが『不登校』を選ぶメリット—行動原理で紐解く不登校—」という演題で講話をしていただきました。講話の中では、児童生徒が不登校になるきっかけや、そのときの行動原理などを説明していただき、不登校の状態を抜け出すために学校ができる手立てを「認知行動療法」の観点からグループ協議も交えて教えていただきました。また、日頃先生方が行っている児童生徒への対応がどういった理論に基づくものなのかもご説明いただきました。



児童生徒が不登校になったとき、「児童生徒の心の充電が十分になるまで待つ」「しばらく見守る」ということが大切と言われていたこともありましたが、現代において、それだけでは自力で抜け出せない場合もあるように思います。私たち教員も、SCの力を借りながら様々なアプローチの方法を駆使して関わる大切だと感じました。

○参加者の感想

- ・未然防止・初期対応・自立支援の3つの総合的な対応を学校だけでなく、外部と連携して支援にあたります。今の支援でいいのかと悩んでいるときは、自校のSCに確認を取りながら、また、担任を安心させるためにも積極的にサポートもしていきたいです。教職員とベクトルを合わせて子どもたちに安心・安全な学校づくりに努めます。
- ・須崎市にとって、不登校がとても大きな課題であることを再認識できました。そして、子供に関わる全ての者が、より真剣に捉えて対応する必要性を感じました。私も学校現場に戻った場合はもちろん、現在の立場でも常に危機感を持ち、できる限りのことに取り組みたいと思います。
- ・今回、初めて出席してみて、継続的な不登校の児童生徒が増えていることを知って、改めて対策をしていかな

ければならない問題だと感じた。継続的な不登校の生徒は、学力面での心配もあるので、登校してもどのように学習意欲に繋げていけばいいのか分からず、私自身も悩んでいるので、この対策委員会を通して、生徒が将来を見据えていく力をつけられるように、サポート方法を私自身身につけていきたい。

ICTのとびら

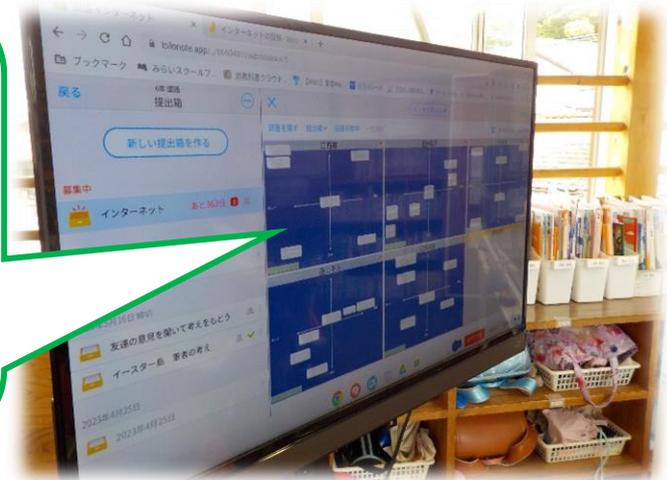
ICTの活用の様子をお知らせします。

発達段階や、教材との相性などもあるかもしれませんが、子どもたち自身が活用できるように場面を確保することも大切です。「使えない」と「使わない」のでは大きく異なります。

例えば、小学1年生には「タイピングを支援するツール」「パスワード」をラミネートして配布し、タブレットを活用しやすくする工夫をしています。児童はミライシードのドリルパークで問題を繰り返し解き、できるようになってから自分のノートに学習のまとめを書いていました。



思考ツールを用いて分類したものを提出し、回答を共有することでお互いの考え方を児童同士が見合っただバイスを送り合う活動もありました。自分の考えと友達の考えの違いが一目瞭然なので、比較が非常にスムーズにできており、活動の中心である「理由の説明」や「比較・統合」に時間をかけることができていたと思います。



個人で見つけた情報を班で共有し、言語化した後、班の代表が共有ノートに提出することで全体共有を図っていました。思考ツールを用意しておくことで、生徒は視点をもって、課題に取り組んでいます。また、情報の整理もスムーズです。共有ノートはクラスの全員が見られるので、生徒は自分が見たい部分に注目して更新される情報をリアルタイムで確認できていました。

